

○議長（小林哲雄）

再開いたします。

午後 3 時 2 0 分

○議長（小林哲雄）

引き続き、一般質問を行います。

10番、小林秀樹議員、どうぞ。

○10番（小林秀樹）

皆さん、こんにちは。10番、小林秀樹です。

今日は、残念ながら低気圧の影響で富士山は姿を消しております。今日は、私は富士山の世界遺産登録、町はどう考えるかというテーマで質問をさせていただきます。

富士山が世界文化遺産登録になりました。待ち望んだ大事で、周辺自治体はこぞって広報表紙を飾りました。直接県の山梨、静岡は一言で言って大騒ぎで、国内、海外まで富士山が波及しております。今後、ますます、四季折々、富士山を求めて皆さんが集まってくるでしょう。あるいは、いろいろな情報、それから本、ツアー等で調査や研究も進んでくるというふうに思われます。

富士山のネームバリューというのは大変なものだと思います。開成町も、乗り遅れないように富士山に焦点を当てようではありませんか。開成町は、第五次総合計画に文化遺産の保全と活用及び広域連携の推進を示しておりますが、富士山に対する具体的な施策があるのかを伺いたいと思います。

一つ、記念冊子「開成町の富士信仰」の普及と活用を。町文化財保護委員会が編集・発行して無料配付しました。評価と引き合いは強いと思います。先月末の時点で189冊が出たというふうに報道されております。全部で200冊を用意されているということです。富士講碑は、現物を町内ですから容易に見られます。富士山とのかかわりを知ったり、文化遺産内容や国内の世界遺産を紹介されているこの冊子を、ぜひ皆さんに手に取って見ていただきたいなど。特に、この中でQ&Aが子どもから大人まで楽しめるものとなっております。この機会に、ぜひ皆さんが冊子に、それから富士山に興味をわかれるように希望します。それから、冊子増刷と広範な頒布を、さらにはしてはいかがかないというふうに考えます。

二つ、周辺31市町、私、31と申し上げたのですが、実際には32でございます、7月広報紙を数えました。開成町はということで、富士山は開成町に非常に近いのです。地理的な直線距離からいったら40数キロで、三保の松原が45キロといますから、ちょうど等距離ぐらいに当たるのです。事実、江戸時代の宝永噴火は、足柄平野、この開成町にも甚大な被害をもたらしております。これは、ほとんど誰でもが知っている事実でございます。第五次総合計画がスタートしております。広域連携の推進にとっては、大変よい機会であると考えます。交流圏ネットワーク会議への参加だけでなく、このような広報紙での町民に見える連携なども重要であ

ると考えますが、いかがでございましょうか。

以上について質問申し上げます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

小林議員のご質問にお答えします。

富士山の世界文化遺産登録は、日本の富士山から世界の富士山となりました。日ごろから借景し、見ている身近な開成町にとって、大変喜ばしいことだと感じております。

最初に一番目のご質問、記念冊子についてですが、富士山の世界文化遺産登録を機に、町文化財保護委員会が従来 of 富士山に関する研究を集約し「開成町の富士信仰」を刊行いたしました。これは、富士信仰の厚い足柄上地域の人々に富士山が古くから愛されていたことを伝え、読んだ人が今まで以上に富士山を身近に感じて、富士山を今の美しい姿をとどめながら後世まで残してほしいということを目的にしております。この刊行については、広く情報発信するとともに、町おしらせ版に掲載をいたしました。

このことにより神奈川新聞やタウン情報誌にも掲載されるなど反響も大きく、当初は50冊作成したものの、町内外からの多くの問い合わせがあり、200冊に増刷をしたところでもあります。今日現在で196冊が希望者の手元に渡っております。あわせて、ホームページ上でダウンロードできるようになっていることから、今後の増刷計画は今のところ考えておりません。また、冊子の内容が少し難しいこともあり、誰にでも理解できるように、また広く知っていただくために、わかりやすい文章等にしたものを平成26年4月以降に町広報紙へ掲載を行っていきたいと考えております。現在は、町ホームページに掲載し、より広い情報提供に努めているところでもあります。

次に、広報紙の件についてお答えします。7月の広報紙については、富士山の世界文化遺産登録決定を祝い、富士山を取り巻く山梨県、静岡県、神奈川県、3県の32自治体による共同企画で、「わがまちから見える富士山」と題し7月号の表紙を富士山で飾ったものであります。今回の企画は山梨県富士吉田市が個別に周辺自治体の協働を募り実施されたもので、開成町では、呼びかけがあった時点では既に7月号の表紙が決定していたため、参加することができませんでした。国民的な関心事を伝える機会を生かせなかった点については、広報を手にとっていただく方への配慮不足であり、今後、同様の機会があった場合には、積極的に参加していきたいと考えております。

次に、広域連携の推進についてです。第五次開成町総合計画の広域連携の推進にも記載しているように、行政課題が複雑・高度化している状況の中で、町が単独で行っていくことが困難な課題が山積をしております。今後、町民サービスの向上や効率的な行財政運営を進めていくためには、さまざまな分野で広域連携を進めてい

く必要があると考えております。富士山を中心とした広域連携としては、ご質問のとおり、富士箱根伊豆交流圏域の市町村が、圏域の自然環境、歴史・文化等を生かしながら連携して交流を進め、課題の解決に取り組むことにより活気あふれる圏域を形成することを目的として、平成13年に富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議、通称S K Yと呼ばれる会議が設立をされました。

S K Yでは、広域連携推進部会、観光部会、防災部会の3部会を設置し、さまざまな連携事業を行っております。今後、S K Yにおいても、富士山の世界文化遺産登録が決定され圏域への注目が高まっているこの機会を捉え、圏域の活性化や課題解決に資する取り組みを推進していくことになるものと考えております。現在も、広報紙やS K Yのホームページなど各種の媒体を通じ、富士山を含めた圏域の多彩な魅力について情報発信しておりますが、今年度は観光部会において、富士山の魅力を生かした広域的な観光戦略について職員研修が行われる予定でおります。

また、S K Y参加市町村によるサミットが隔年で行われております。今年度のサミットのテーマは災害対策であり、圏域内において想定される東海地震や富士山噴火、台風や集中豪雨による河川の氾濫などについて、改めて共通認識を高めるとともに、広域連携による実効性のある災害対策について議論することになっております。このようなさまざまな取り組みに開成町も積極的に参画し、町の活性化や町民の安全・安心につなげていきたいと考えております。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

10番、小林秀樹です。

まず、富士山信仰の関係なのですが、登山者のこの夏の、終わったのですけれども、7月、8月の集計では、今年は23万3,000人余りだったということで、前年に比べて約6%減っているのです。さらに、4年前の2010年が最近10年間のピークで26万人だそうです。これは富士吉田口での調査ですから、静岡県側を含めると倍近くなるのかなと。これは予測です。去年から今年、どうして大幅に増えなかったのかなという、どうも富士吉田、あるいはいろいろなマスコミの情報では、やはり交通規制があったから後半に伸びなかったのだろうということが言われております。確かに、そうかもしれません。

ただ、この中でちょっと注目したいのは、馬返しといいますから、これは静岡側ですかね、大体1合目から2合目のところですね、あそこに石碑があるのです。富士山の方々に、上に石碑があるのですけれども、ここの通過者が1.4倍であったと言われております。したがって、少なくとも昨年比べて多くの人々が富士山を目指したのだろうというふうに考えます。何が言いたいかというと、富士山を遠くから眺めて「ああ、きれいだ、世界遺産だ」というふうなことであつたら、これは誰でもできることなのです。この千載一遇のチャンスを開成町はどう生かすかという

のが、私は必要ではないかと思えます。先ほど来の同僚議員の質問の中にも、観光ということ、観光資源ということが大変強く主張されていました。富士山そのものが観光資源として世界に発信されているわけです。日本の富士山ではないのです。世界の富士山です。それを近い距離にある開成町は、やはりいろいろな面から生かすというのが必要。

まず考えられるのは、開成町が富士山と一番近いという意味では、富士山と酒匂川の関係だと思えます。そこを観光として開成町を売り出す。富士山というのは、これは押しても引いても動きません。爆発すると、どういうふうに変化するか、これはわかりませんが、とにかく365日鎮座しているわけですから、あじさい祭、あるいは阿波おどり、あるいはスポレクにしても、そのほかの阿波おどりにしても、開成町として非常に積み重ねた歴史があるのですが、期間限定なのです。毎年積み重ねて、だんだん大きな集客力になっているのですが、これを逆に、富士山というものを一つの大きな観光、富士山、酒匂川、それから周辺をメインにして、その中にあじさい祭がある、あるいは阿波おどりがあつた、そういう形に考えたかどうかと思えますが、そういう考え方についての町側のご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

総体のお話なので、企画サイドでお答えをさせていただきたいと思えますけれども、確かに、富士山自体、今回、世界遺産登録がなされまして、酒匂川、町中から富士山の山頂が見える開成町にとつても、非常に大きな話題になるのかなと思っております。その意味では、今後、開成町で観光というものに対してどのようなアプローチをしていくのか、それについては、まだ細かいことは決めているわけではございませんし、はなから、まだ、うちは観光都市、あるいは観光をメインとした町として売り出しているというわけではございません。観光をどう考えていくかについては、まだ今後の検討課題なのかなというふうになつたところは認識をしているということでございます。

それを踏まえた中で、酒匂川と富士山というのは確かにポイントの一つにはなるかと思えますけれども、先ほどメインのほうは富士吉田口あるいは富士宮口というようなお話もありましたけれども、あくまでも開成町にとっては富士山というのは百景の一つというふうになつていると。決して、それが頭に来て、富士山をメインに打ち出していくような体制には恐らくないだろうと思えますし、それだけをポイントにして売り出すということは、うちの町では難しいのかなというふうに入ります。

ですから、その意味で申し上げますと、やはり周辺の市町、例えば、箱根でありますとか南足柄でありますとか山北町、松田町、足柄地域、それから御殿場等を含めて周遊というものの一環として、2号橋でありますとか、あるいは箱根と南を結

ぶ道路の開通等を睨んだ中で、開成町にも回っていただくということは当然考えていかなければいけないと思います。その中の一つとして、富士山と、それから酒匂川、あるいは相模湾、あるいは東名とか、ここら辺の観光資源、それを重層的に組み合わせた中の一つとして売り出していくということは可能だと思いますし、そういう施策は今後、打っていくべきものだろうと認識しているということでございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

富士山と酒匂川はもちろんなのですがけれども、例えば、今回の富士山信仰、「開成町の富士信仰」、この冊子でございますね。確かに、先ほどの町長の答弁にもありましたように、ちょっと見にくいかな、難しいかなという感じはいたします。私もそう思いました。ただ、そうではないぞと思ったのは、これを持ってこの4カ所を訪ねても、もちろん意義はあるし、よくわかる。現物を前に、これを見ながら、開成町内の4カ所ですから非常に短時間で回れるのです。それだけでも非常に意義あることで、富士山に近づく、あるいは富士信仰に我々が近づく、町民が近づくということが可能だと思います。それを、まず町民がそういう行動をできるような雰囲気をつくる、それから、それを今度は地域あるいは県内、全国、あるいは、場合によっては世界に発信すると。

開成町は、確かに、県内に行っても、あるいは小田原に行っても、「開成町、どこにあるの」と言う知らない人が多いです。県内では、開成町はあじさいの町であるということと言うと「わかります」と言いますけれども、確かに少なくない人があじさいの町と捉えるとわかるのですけれども、もっと富士山というネームバリューを使って開成町をつなぐと非常にわかりやすい。

私、この1年、県内をいろいろ自分の私的な用事で回る機会がありまして、そのとき、現在もそうなのですが、開成町と言うと必ず「どこにあるの」という返事が返ってくるのです。箱根の麓です。余りぴんどこない。富士山の近くですと言うと「ああ、そうか」ということで、それで、あじさいを非常に盛んにしていますよと。ですから、小田急を使っての宣伝効果は非常に大きいと思います。ただ、あじさい祭が終わってしまうと、開成町というのは、よそからはどこかへ行ってしまったような存在なのです。ですから、これを、年間を通して開成町をアピールしながら、その中で開成町のイベントがあるということに考えを転換してはどうかというふうに思います。

そういうことで、先ほどの答弁の中でも周辺との連携ということがありますが、今までのような連携でなくて、開成町が主導する、そして開成町がリードする連携というの也被考えられると思いますが、町長のお考えを伺いたしたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

せっかく富士山が世界遺産に登録されたということは、我々開成町にとっても、富士山が見える町でありますので、これは何とか生かしたいとは思っておりますけれども、まず、今回、富士信仰という文化財保護の方々がタイムリーな形で出してくれたということはすごく大切なことで、我々は広報紙をタイムリーで逃してしまったということをしごく反省を実はしております。

そういった中で、タイムリーな富士信仰を町内の人たちにまず知ってもらうことが先ではないかなと。富士山を観光のあれというのもあるのですけれども、我々地元の間が地元の富士信仰について知らないというのはやはりまずいかなと。せっかく文化財保護委員の方がこのようなタイムリーな形で出しているのです、まず先に、先ほど小林議員が言われたように、町内の4カ所を回るイベントをやるとか。先ほどの佐々木議員の中で、写真の人たちはすごくビューポイントを見つけて撮ると思うので、開成町の中で富士山をどこから撮ったら一番きれいに映るのかというコンテストをすとか、まずは町内の中から、せっかく富士山が世界遺産になった以上は、そこから盛り上げていって観光につなげていったらいいかなと、今、考えたところであります。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

町内から富士山信仰を広めていくというのには、私も、もろ手を挙げたいと思います。

そこで、ただ単に町内を回るのがプラスして、例えば、雑巾を持って水筒を持って石碑を洗ってはどうかと。これはちょっと前の言葉になりますけれども、開成町、きれいなまちづくりをすることで皆さんが取り組んでいるわけですが、ただ単に道路のごみ、あるいは周辺の草等を拾うということも、もちろん必要ですし、あるいは今回の指定された富士信仰の碑、石碑などを、たまには洗ってきれいにしはどうかと。石碑そのものが非常に気持ちいいものになると思いますし。それを全ての方がもちろんやればいいのですけれども、なかなかそうはいかないので、やっていくことによって周りにおられる方、あるいは管理する方が、自然とそのような方向に行くのではないかなと。世界一きれいな石碑ということでも、開成町が一つはアピールできるようになるのかなというふうに思います。

それから、もう一つ。最近、「歴女」という言葉を皆さん、ご存じかと思いますが、非常に女性の方が歴史を好んで、そちらの方向に行かれています。今回、約200冊の冊子が出たわけなのですが、頒布分布というか、男女とか年齢とか、あるいは地域とか、そういうものはわかるでしょうか。それがわかったら、参考までに教えていただきたいのですけれども。なぜかという、歴女ではなくて、今度は歴

史の町、歴町にしたらどうかと、開成町を。今までの二番煎じだと、なかなかアピールできないのです。開成町は富士信仰のおかげでリバイバルしてきたと、多くの町民が石碑を愛し、それから多くの町民が歴史を振り返って開成町を新しい町、歴史の町として考えている、取り組んでいるということも一つはあるのではないかというふうに思います。富士信仰の石碑の指定によって、非常に大きな変化が期待できると思います。富士信仰については以上で終わりますので、先ほどの頒布の分布と町の歴史に対する取り組みについて、いま一度、ご答弁がありましたらお願いしたいと思います。

○議長（小林哲雄）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

開成町の富士信仰の関係でございますので、教育委員会からお答えをさせていただきますけれども、まず1点。頒布の状況ですけれども、先ほど町長答弁がございましたけれども、今日現在で196部、既に出ております。内訳としては、町内が145部、町外が51部という形で、これ町外の方は神奈川新聞であったりとかタウン誌であったりとか、そういったところの情報で取りに来られた方がほとんどということで、当初は送ってくださいますというようなお話が多かったのですけれども、とても対応がし切れずに、こちらに来ていただくのであれば渡しますという状況でお話をさせていただきました。

今回、予算のない中で、急遽、手づくりでやらせていただきましたので、先ほど答弁がございましたとおり、200部で打ち切りをさせていただきながらホームページ上にアップをさせていただいておりますので、そちらから必要な場合はという形でご案内をさせていただいております。今現在も若干、枚数はございますので、取りに来られている方はお渡しをしているという状況です。

それで、あと男性女性とか、その辺の区分ですけれども、男性女性というよりも、やはり年配の方、歴史に興味をお持ちの方が圧倒的に多い状況ですということは、お伝えをしたいというふうに思います。あと、取りに来られた方の中にも、実際に開成町で富士信仰、富士講をやっていたグループさん、昔はこういうのがあったのだよというようなお話をいただいたりとか、いろいろ、その後のそういった情報もお寄せいただいたという経過がございます。

そして、ご提案の中で石碑等をちょっと磨いてきれいにしたらと、開成町、きれいなまちづくりということもあるということで、そういったご提案なのですけれども、ご承知のとおり、富士塚であったりとか、そういったものに限らず、開成町、道祖神碑であったりとか庚申塔、水神碑、馬頭観音、さまざまな石碑を抱えてございます。それと、公共の場にあるものばかりではなくて、民地であったりとか、そういったところにもございますので、状況的には、ご好意によって、そういったものは行っていくものかなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

歴史の町をつくろうということについての見解は、いかがでしょうか。

○議長（小林哲雄）

よろしいですか。歴町です。

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

歴史の町といったところでは、大変大きな課題かなというふうには思うのですけれども、そこまでの回答にならないかもしれませんが、今回の開成町の富士信仰、先ほど町長答弁がございましたとおり、多くの方に知っていただくということで、今回、冊子のほうはおつくりしたのですけれども、今までの状況をまとめさせていただいたという経過がありまして、ちょっと専門的な内容になってございます。来年度になってしまうのですけれども、広報紙のほうに、かみ砕いて、もうちょっとわかりやすく、子どもにもわかるような内容にして連載をしていきたいということで、文化財保護委員さんも交えて、そういった方向で今、調整をとらせていただいているところがございます。部分的にはなりますけれども、そういった歴史、開成町の富士信仰といった部分ではPRをしていきたいと考えております。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

それでは、次の広報紙のことについてお伺いしたいと思います。

7月の広報紙は、残念なことに開成町の富士山が見られなかったと。これは開成町だけではなくて、近隣では山北もそうですし、松田町はちょっと別の形で出ておりましたのですが、ちょっと気になるところです。

そこで、開成町の広報紙が既に間に合わなかったというふうなこともあるのですが、その間に合わなかったという中身なのですけれども、例えば、5月の締め切りに間に合わなかったのか、それとも、どういうふうな、写真が間に合わなかったのかわかりませんが、5月の小学校入学式というのは4月5日の入学式が写真になっているわけです。それから、6月の自治会対抗の女子ソフト、これは5月12日に行っているわけです。これが6月の表紙になっています。それで、7月は6月14日の南小学校わきでの植樹なのです。これは、6月14日であっても7月の表紙に間に合っているのです。8月が幼児のプール、それから9月が中学生のゲートボール、これは8月4日ということで、8月の第1週ないし第2週でやった行事については十分間に合っているのですが、その辺のタイミングのずれというのをどういうふうに解釈したらいいか、ちょっと伺いたいと思います。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。



○自治活動応援課長（岩本浩二）

議員のほうのご質問のほうにお答えさせていただきます。

時間的な話ということではなくて、もう既に編集作業に入っていた6月の段階で富士吉田市からこちらの情報が入ったということで、私どもが編集の作業に入っている過程の中での情報提供だったということで、その部分で作業工程の中にその作業を入れることができなかったということでございます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

今、タウンニュースが手元に以前のあるのですが、それと神奈川新聞があるのですが、この両方のタイミングがちょっとずれているのです。違うかな。ごめんなさい。それは富士信仰そのものの冊子をつくることについてですから、これは今、訂正いたします。

例えば、何か緊急事態が起こったということでの編集し直しとか編集を急遽、変えるとか、そういうことは通常やると思いますが、内容によりけりですよ。ましてや、表紙の。記事の内容ですと、非常にレイアウトとか字数とか本文とかということで制限があると思いますので厄介なのですけれども、比較的、表紙では入れかえというのが可能ではないかなというふうに素人ながら考えるのです。そういう意味での、既に編集が始まって方針が決まっていたということというのは、富士山遺産登録を掲載するよりも、今回の開成の杜をつくるための植樹を表紙に載せるほうが開成町としてはアピールしたかったと、そういうことなのではないでしょうか。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えします。

今、ご指摘のとおり、差しかえが緊急でできなかったのかというようなお話ですが、100%不可能だったのかということであれば、そこは可能であったのだろうというふうに思いますが、そのときの判断で富士山よりも杜づくりを優先したというようなことでございます。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

それでしたら、そのように受けとめたいというふうに思います。

聞くとおっしゃるとおり、広報紙の編集というか、広報紙を改善しようという動きで町側が既に取り組んでおられるということをお伺いしています。これは、いつから取り組まれて、例えば、今回のようなことが入っても、それに対応できるのかどうか。それで、いつまで広報紙の検討チームがチームとして動いておられるのか、まず、それを伺いたいと思います。

○議長（小林哲雄）

副町長。

○副町長（小澤 均）

ご指摘いただいているとおおり、まず、広報紙そのものを誰に向けてつくるのかということが、やはり一番基本の部分にあるのかなというふうに思います。三役部長会議が終わった後に、今年から、そういった広報紙の編集会議ということで、広報紙の全体的な、何月号でどういうふうな記事を掲載するのか、表紙のことも含めて、事前にそういった議論をする場面を設けました。

ご指摘いただいている富士山の世界登録のタイミングの中で逸してしまったといったことは、以後、ほかの近隣の県内のそういう自治体の中では統一的にそういったことを採用しているといったことがありますので、これは開成町の部分だけではなくて、足柄地域ですとか県西地域ですとか、そういった部分の中で盛り上げていくというふうな、それぞれ、いわゆるSKYとか、そういった構成市町の中では取り組みをずっと並行してきてやっているわけですから、そういうことを踏まえて、世界遺産登録の中で広報紙に表紙を掲載して、町民とともに、また地域のそういった盛り上がりを意識して掲載をすべきであったという議論は、その会議の中でやってございます。

課長のほうで、編集のタイミング、事前の調整の中で、そういうことがなかなかできにくかった、間に合わなかったというふうなお答えをしましたがけれども、以後、そういったことがないように、できるだけいろいろアンテナを張りながら、町民に向けてどういう発信をしたらいいのかということ意識して作成をしていきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

私のイメージとはちょっと違っていたかなと思ひまして。私のイメージは、新たに町の編成会議というのが、再編会議というのですか、今までの広報紙と別なものをつくっていこうやという新たな編集会議かなというふうに思ひましたのですが、そうではなくて、今までの編集の中で三役部長会議の後に皆さんで検討を加えるということのようですね。

そうすると、今、ご答弁にもありましたけれども、今回のような、一つには、やはり部門間、あるいは情報がどこかで途切れたとか余りよく伝わっていなかったとか、そういうことも考えられるのですが、そういうことが今後は改善されていくというふうに考えてよろしいわけですね。

○議長（小林哲雄）

副町長。

○副町長（小澤 均）

ちょっと説明が足りなかったところがあるのですが、いわゆる広報紙全般の何月号にどういった記事を掲載していただくか、年間のベースの中で、例えば健康シリーズですとか、そういったテーマ性のあるものについての年間スケジュール等については、三役部長のレベルではなくて、作業部会的なレベルの中で以前から編集会議というのは持っております。三役部長会議の後に行っている編集についての会議の中身とすれば、やはり、今、言われたようなタイムリー性ですとか、町民に向けて、どういうふうな啓発記事を載せていったらいいのか、どういうことを町として推進していることを伝えたらいいのか、そういったことの大枠のところ議論をしているというふうにご理解いただきたいと思います。具体的な個別の所管ごとの記事の掲載の部分については、主幹クラスの中でそういったものを練っているということを持ち合わせていますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

理解するところです。

広報紙は、非常に重要な役割を担っていると思います。これは私の口から言うことでもないのですけれども、3年前のアンケートでも70%以上の方が広報紙に目を通してということ、非常に町民は期待しているわけです。ですから、その町民の期待に応えるようなことを編集会議、それから三役部長会議で進めていこうということでは理解できると思います。

それで、表紙、あるいは本誌も同じなのですけれども、表紙のカラー化を年を通して進めていただきたいと思います。中身、あるいは表紙の写真がよくても、カラー化でないと何か半減してしまうのです。予算の関係もあるのですが、ぜひ補正でも組んでいただいて、それほど大きな金額ではないというふうに私は想像するのですけれども、カラー化、それから本誌のほうは2色刷り、あるいは3色刷りで対応すれば、非常に町民向けに新たな開成広報として訴えることができるのではないかなというふうに思います。これは議会だよりも同じことが言えるのですが、まず、開成の広報紙から、ぜひ取り組んでいただけないかなというふうに考えます。そのことを一言申し上げて、そのご返事をいただいて、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（小林哲雄）

若干、質問項目と違いますが、認めます。

副町長。

○副町長（小澤 均）

予算の査定の中でも、担当課のほうの要望とすれば、やはり町民の方にとって見やすい広報紙を作成していきたい、できればカラー化を図りたいという要望が上がります。経費節減の中で、そういったものは白黒でもモノクロでもいいのではないかというふうな判断の中で現状にしております。年間を通じて全てカラー化にするほうがいいのか、それとも経費の削減に努めるほうがいいのか、町民からの意見と

しても両方ございます。カラーでなくてもいいのではないかというふうなご意見もあります。そういうことを総合的に斟酌、判断して、見やすい形で広報紙を作成していくという視点の中で詰めていきたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

終わります。

○議長（小林哲雄）

本日の一般質問は全て終了いたしました。残りの一般質問は明日、行います。

本日は、これにて散会いたします。ご苦労さまでした。

午後 4時06分 散会